

2016年 生活クラブ運動グループ昭島地域協議会

中長期計画～市民版市域福祉計画づくり

1. 2011年中長期計画の総括

昭島地域協議会の2011年中長期計画の策定から5年が経過し、2016年新たな中長期計画の策定にむけて5年間の活動の振り返りを行いました。

2011年の中長期計画の大きな目標は「居場所づくり」でした。2011年以前から継続的に他地域の様々な居場所、コミュニティハウス等の取り組みについて見学を行うなど活動を行ってきていました。今期は居場所となる物件が見つかったことで地域協議会が中心に実行委員会が立ち上がり、メンバーの拡大、運営組織の形成の検討などが行われ、2014年朝日町に「ワーカーズまちの縁がわ朝日町」が運営、管理する「ここっちゃん」が誕生し、美堀町でもそのサテライトで居場所事業が行われています。

社会的にも地域の市民の交流の場の必要性が広く認識されるようになっており、市内には社会福祉協議会の「ふれあいほっとサロン」に登録する居場所が急速に増えてきました。

運動グループでもNPOACT大きなかぶ、まちの縁がわ朝日町、地域のお茶の間がサロン登録をして居場所事業を展開しています。

今回の中長期計画の策定にむけては、地域協議会の構成団体それぞれが2011年中長期計画を持ち帰り、団体の担っている事柄を確認、総括に盛り込むことができました。

2. 2016年中長期計画策定にむけて

2015年介護保険制度改正では財源不足を理由に要支援1、2を対象とした予防給付のうちの通所介護、訪問介護が自治体の行う地域支援事業に移管されることとなりました。

急速に高齢者が増えていく2030年に照準を合わせ、住み慣れた地域で暮らし続けるには行政、市民が連携したまちづくりをすすめていく必要があります。しかし、その認識は自治体によりばらつきがあり、サービスの格差が生じることが予測されています。昭島市の認識は高いとはいえない状況です。今後の市の動向について注視しつつ、さらに地域の支え合い、サポートのしくみづくりをすすめていく必要があります。

私たちの活動の基本は私発で「こんな暮らし方がしたい」を発信し、その実現に向け力を出し合うことです。あらたな計画づくりにむけてワークショップ、ひとこと提案をおこない、さらに構成団体の担っていることの積み重ねで計画づくりをおこないました。

① まちづくりワークショップ ～私たちはこんな昭島に暮らしたい～

あらたな計画の策定のために構成団体の代表者だけでなく、メンバーも参加してワークショップを行いました。様々な視点で意見が出されましたが、どのグループからも出てきたのが「異世代の交流するまち」でした。

さらに異世代が交流し地域で暮らし続けるために必要なこととして、場所を確保するための空き家・空き店舗の活用のしくみ。障害のある子どもの放課後の居場所づくり、子ども食堂や学習支援の場づく

り、地域で働くことや、市民事業の立ち上げといったことをテーマに話を深めました。

②ひとこと提案

まちの組合員を対象に一言提案アンケートを行いました。回収の数が9通とごく少数でした。食材にこだわった弁当、総菜屋さん、冒険遊び場、子ども食堂を望む声が複数ありました。

これらの意見をまとめ、さらに地域協議会で協議し、中長期計画を策定しました。

あらたに「できたらいいなこんな場所・機能」として以下のような意見がでました。

- 地場野菜が食べられる市場がほしい
- 畑作業をするコミュニティー
- 商店街・農家との連携した子ども食堂
- コミュニティーレストラン
- 配食サービス
- 電球取り替えます 買い物、片づけ、草取り、ゴミ出しします。低料金の家事手伝い
- 移動サービス 買い物企画とつなげる
- 生前整理アドバイザー生前整理事業
- 外注の利用 自宅で作る作品を売る場所の提供
- チラシまきワークス
- 一日単位で頼める弁当、惣菜 食材にこだわったお弁当屋
- 空き家を活用したシェアハウス、コミュニティハウス
- 障がい児の機能訓練を地域の中で続けられる場所 ・放課後を過ごせる場所
- 放課後NPOアフタースクール（学童問題解決と地域交流のため）
- まちの保育園

3. 市民版地域福祉計画づくり

中長期計画策定の協議を進める中で、主体者が見えている重症身体障害児の「児童発達支援」及び放課後等ディサービス事業と、ほっとサービス事業。さらに今後必要性が高いことや、新たな団体との連携で実現の可能性が見通せる「子ども食堂」の取り組みについては市民版地域福祉計画として3年以内の実現をめざします。

これまでも昭島地域協議会では【障害児の医療ネットワーク・ケア機関・相談機関の充実のための事業】を目標としてきていました。市内の医療ケアを必要とする重症心身障害児は村山特別支援学校に通っていますが、重症心身障害児を受け入れている放課後等ディサービスが市内にはなく、他市のサービスに頼らざるを得ない状況にあります。児童発達支援事業についても数がかぎられており、充分とはいえません。発達障害の受け入れ施設は増える傾向がある一方で、重症度があがれば上がるほど受け入れは厳しくなっています。そのことにより機能を維持するのに必要な機能訓練を継続できなくなる現状があります。重症心身障害児放課後等ディサービスおよび児童発達支援事業の実現は、24時間ケアにあたっている保護者のレスパイトにもつながることが期待されます。

ほっとサービスはまちの縁がわ事業の一つとして構想されているものです。生活クラブ運動グループの「安心ネットワーク構想」でも「市民による24時間365日の暮らしを支える地域の仕組みづくりの必要性が謳われていますが、その糸口となるものと言えます。縁がわの立ち上げより1年が経過し、早期のスタートが望まれています。2015年度は、生活クラブ生協エッコロ共済のコーディネーター事業への参画を実施しましたが、さらに、サポーター会員を拡大し、メンバーが広い視野で活動するために有効な研修を行っていく予定です。地域の支えあいの関係性を紡いでいけるよう計画の実現をめざします。

子どもの貧困問題は深刻です。「子ども食堂」は豊島区の取り組みをきっかけに活動が広がっていますが、対象をどう考えるか、事業の継続性はどうか担保するのかなど、整理しなければならない問題があります。実践例を調査しながら、市内の団体、市民との連携も築きながら実現に向け調査や試行に取り組む中で主体者の登場を模索しながら活動を進めていきます。

事業名	2016年	2017年	2018年
児童発達支援事業及び重症身心障害児放課後等ディサービス	事業開始		→
ほっとサービス	事業開始		→
子ども食堂	事業展開にむけての調査・連携団体の模索・試行事業	事業開始	→



《わたしたちができること》

- ・市民でエネルギー転換プロジェクトチームを作る
- ・自然エネルギーの補助金対象者へ省エネ教育を充実する
- ・エコな日をつくり、ノーカーティ、節電の啓発をする



《私たちができること》

- ・移動サポートの充実で行きたいところにいけるまち。
- ・ケア付き住宅、シェアハウスをつくり地域で助け合いながら暮らし続ける
- ・ほっとサービスで支え合いのしくみをつくる。
- ・障害児も地域で過ごせるように放課後等デイサービスを実現する
- ・障害児への理解を深めるための働きかけ
- ・障害児の医療ネットワーク・ケア機関・相談機関の充実



《私たちができること》

- ・コミュニティづくりや、農業支援など地域特性を生かした仕事をつくる
- ・市民版人材バンクで働きたい人と雇用情報をつなぐ
- ・社会的ニーズの情報収集と広報
- ・地域の事業を横で連携させる

地域に仕事をつくる

- ・NPOや社会的企業を支援して働きたい人に仕事をつくる
- ・資格取得への援助
- ・副業の推進
- ・市民事業の支援

住み慣れたまちで暮らし続ける

- ・生活を支え合う
- ・ケア時間、場所を柔軟にした高齢者サービスの充実
- ・認知症になっても安心して暮らせるまち
- ・地域の市民・市民事業でご近所力を強化する。
- ・医療
- ・在宅医療を24時間体制に

昭島に適した自然エネルギーへ転換する

- ・エネルギー転換にむけて、まずは省エネをすすめる。

昭島の誇れる地下水をどうしても守りたい

- ・汲み上げた地下水の量を雨水浸透させよう
- ・地下水汚染を防ぐために土壌汚染（除草剤など）防止を徹底する。

これ以上緑を減らさない

- ・緑化地域制度や、崖線アダプト制度、緑のトラスト制度で緑を残す。
- ・市民農園・体験農園（水田版）で農地を守る

こんな昭島に暮らしたい

未来をつくる食・奪わない食

- ・昭島ブランドの農産物づくりで、自給力を高め、昭島の農地を減らさない
- ・給食に積極的に地場野菜を使うと同時に体験から食を学ぶ教育をすすめる
- ・安いにはわけがある。自分で判断できる食品表示を徹底し、安心な食材が選べるまちにする



《私たちができること》

- ・地産地消、地場野菜のコミュニティーレストラン
- ・昭島産大豆と水を使って豆腐づくり
- ・農地マップをつくる
- ・固定種の野菜作り
- ・地場野菜の農薬の使用調査
- ・食農教育の実践

市民の力がいかせるまちづくり

- ・景観条例で景観を大事にするまち
- ・歩行者が安心して歩きたくなる道づくり
- ・道路計画に市民の意見を活かし、見直す
- ・市民活動・市民事業を応援する制度
- ・空き家、空き店舗活用のルール・補助制度で活用を進める

《私たちができること》

- ・空き店舗・空き家活用で人が集う場所をつくる。
- ・空き家・空き店舗管理のしくみや自宅開放できる人の登録制度・活用したい人とのマッチングのしくみ

市民が使いやすい行政

- ・財政や行政の情報がわかりやすい、透明性の高いまち
- ・行政の仕事を再点検して、無駄をはぶき、機能的で効率よく動く行政組織にする

《私たちができること》

- ・市民オンブスマンの結成

人と人がつながるまち

- ・どの子もいきいき生活できるまち
- ・子育てをもっと楽しくできるまちに
- ・子育てをサポートする冒険遊び場をつくる

異世代が交流するまち

- ・地域コミュニティづくりで老後も障害をもっても、子育て中でも、安心して生活が送れる住みよいまちにする

《私たちができること》

- ・障害を持つ人も持たない人も一緒に集まれる場所をつくる
- ・みんなの居場所、交流の場＝縁側を地域にたくさんつくって人と人がつながるまち



誰でもどこでも学べるまち

- ・人材配置の柔軟にできる学校にする
- ・教育委員選出に市民参加を
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを増やす
- ・対象者を拡大して公共施設をもっと臨機応変に使いこなす
- ・中央図書館づくりにも市民参加を

《私たちができること》

- ・市民事業で教育を担う人材を育てる
- ・食育・性教育・平和教育・相談・認知症授業のサポートなど
- ・多様な放課後の居場所を確保する

ゴミを減らす

- ・生ごみの地域循環モデル地域をつくる
- ・レンタルの生ゴミ処理機の処理物、捨てられる園芸土、剪定枝、落ち葉を活用する
- ・公共施設に昭島のトイレトッパーを使う

《私たちができること》

- ・堆肥を花壇、市民農園で活用する
- ・陶器のリサイクルをはじめよう

《私たちができること》

- ・どんぐりの里親制度で昭島に雑木林を作る。
- ・大気汚染調査に参加し監視を続ける
- ・水田マップをつくる

《私たちができること》

- ・雨水は資源。もっと活かすための社会実験を提案する
- ・河川汚染防止のため、石けんを使うプロジェクトで呼び掛ける
- ・校庭の芝生お世話ワークショップをつくる
- ・水辺調査の継続

